

① 玉葱の噛む程甘き秋の朝

② 父を待つ日暮れの土間に冬至かな

③ 冬の月才才カミ鳴くか御岳山

④ 卷雲に龍の鱗の影生ず

⑤ 足袋(たび)裸足(はだし)草木の錦に
一歩を踏む

⑥ 友と行く三人旅の柚子湯かな

⑦ 柿の葉の散りてあらわる

朱(あか)ひとつ

⑧ 夕焼の色薄らぎて冬に入る

⑨ 冬のあやとり巨大クレーン車

⑩ 栗おこわ思い出探れば

零余子(むかご)飯

⑪ 此処(ここ)彼処(かしこ)秋晴れ広場
空に跳ぶ

⑫ 冬至日やブランコの影ひとり揺れ

⑬ 散る葉にも物語ありて秋しずか

⑭ 托卵(たくらん)のホトトギス啼く
申しひらきか

⑮ 二坪の祠(ほこら)に撓(たわ)む
蜜柑かな

⑯ 園内に吸い込まれ歩く銀杏路

⑰ 喪に服す手紙受くるや酉の市

⑱ 手帳閉ぢ身のならひに年惜しむ